



こくろうよなご

第21号

2024年6月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

見切り発車ではないですか！

第2回組織対策会議を開催！

シニア退職の続く駅

去る6月15日、「第2回地本組織対策会議」を開催しました。会議の冒頭、倉下委員長より「国労5年ビジョンも最終年度となった。全国で組織の拡大はあるが、流れを変えられるような状況にはなっていない。これから5年ビジョン以降の方向性の議論もされるが、組織拡大が最重要課題であることは間違いのない。職場では、年齢を問わず退職者が後を絶たない。労働組合が存在価値を示す時でもある。労働条件の改善を通じて、組織の拡大を勝ち取るう」など、挨拶がありました。

その後、吾郷書記長より「西日本組織対策会議」「全国組織拡大交流会」の報告、また、地本としての組織対策についての提起を受け、各職場の状況や分会の

取り組みなどについて報告を受けました。職場の状況で言えば、離職やシニア社員のハーフ勤務希望の方が増えているとの話が出されていきました。

シニア社員の退職が続く駅では、「要員が少ないのに管理駅からの支援もない」「普段はそうでもないけれど、列車が遅れたときには、睡眠時間が削られる」という状況、また、乗務員職場からは「タブレットにより年休や超勤の申請を行う。年配者には簡単ではなく、申請の為の超勤をする。規程の改定なども見る様になつてはいるが、時間も十分理解出来ないまま乗務している。見切り発車としか思えない」などの実態も報告されていました。

長期雇用でこそ！

こうしてベテランをはじめとして、社員が次々と職場から遠ざかる現状について、会社はどのように考えているのでしょうか。社会人採用の方たちが随時、職場に配属され一時的に要員不足が解消している職場もある



るようですが、離職などの根本原因である「働き続けられない職場環境」にこそ目を向け、改善を図るべきではないでしょうか。

鉄道固有の技術・技能を習得するためには、長期雇用が前提となる事は言うまでもありません。職場改善と組織の拡大を車の両輪として取り組みを強化していく事を確認し、会議を終えてきました。

初参加もあり、大いに盛り上がる！

去る6月15日、米子連合分会の「家族会」を開催しました。

米子駅前からマイクロボスにて、大山Gビルで有名な「ガンバリウス」まで送迎、組合員・家族総勢18名が懇親を深めてきました。門協分会執行委員の音頭で乾杯、家族会初参加のご家族もおられる中、普段なかなか話せない職場や家庭の話題で大いに盛り上がりました。



編集後記

先日の新聞に「変わり始めた『レジは立ち仕事』」との見出しを見つけた。あるデイスカウント店で従業員からの「立ちっぱなしの負担が大きい」という声を受けて、レジカウンターに高さ調整付きの椅子をおいたというもの。海外では、「レジの椅子は珍しくない」とも書かれていた。これまでの当たり前にとらわれない柔軟な発想で労働環境の改善を！

エリアを超え、年代を超えて

二つの講演に学ぶ！

6月2日〜3日にかけて「第17回全国組織強化・拡大経験交流集会」が、神奈川県藤沢市片瀬海岸のKKR江ノ島ニュー向洋で開催されました。会場から徒歩2〜3分で、江ノ島に続く海岸道路に出るような場所でした。

私自身3回目の交流集会参加でしたが、若い組合員も気軽に参加できるような雰囲気があり、参加人数も本部・青年部・女性部の役員を含めても49名と交流集会にはちょうどいい参加人数だと感じました。

交流集会1日目は、2つの講演があり、講演①では、相模鉄道労働執行委員長より「第二組合が発足する中で組織強化について」のお話があり、私たちが経験した「国鉄分割・民営化」当時を思い出させるような講演でした。講演②では、山岡弁護士より、「労働組合の必要性と今後の課題」と称して、団体交渉に向けての準備や労使交渉を繰り返す中で、組合員間の信頼関係を醸成していくことの重要性について考えさせられました。

交流会場の一体感！

2日目には、「エリア・地方本部からの取組報告」を行い事前準備されていた報告以外にも組織活動について意見が出る場面もあり、参加者感想や決意表明を合わせて16名からの報告がありました。

交流集会の最後に参加者アンケートの提出がありました。私を含め交流集会終了後も熱心に記入をしている仲間もあり、今回の交流集会の感想や思いを本部に伝えようという気持ちで現れている事を感しながら、帰路に着きました。

（吾郷書記長）